ＪＦＥホールディングス株式会社

2025 年度　第３四半期決算説明会（インベスターズミーティング）

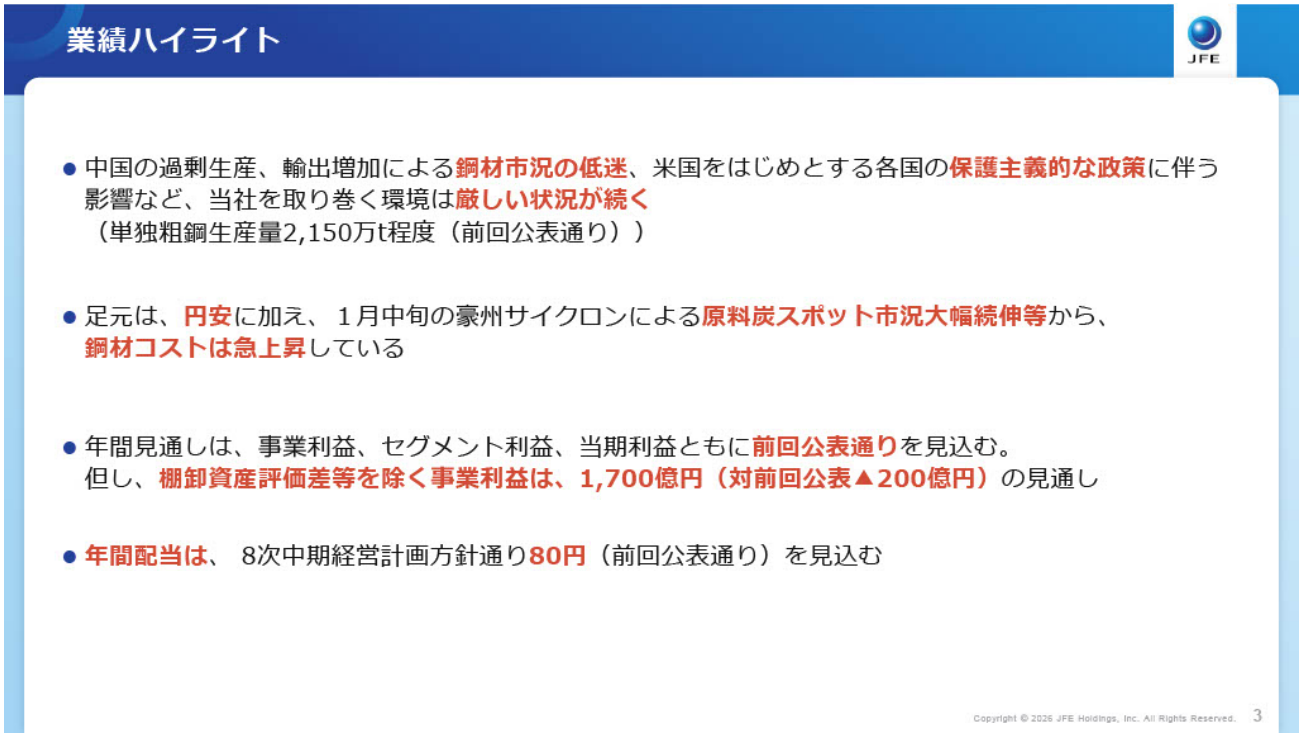
2026 年 2 月 5 日

登壇

司会：これより、JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。本日の出席者は、代表取締役副社長の寺畑雅史、常務執行役員の田倉綱大です。

本日の時間割は、ご説明約 30 分、質疑 30 分の合計 60 分を予定しています。

決算および業績見通しにつきまして、代表取締役副社長の寺畑より、業績の概要をご説明します。



業績ハイライト

			対前年同期	対前回公表
2025年度 3Q累計	事業利益 ※棚卸資産評価差等除き	974億円 [1,434億円]	▲233億円 [▲643億円]	–
	セグメント利益 ※棚卸資産評価差等除き	792億円 [1,252億円]	▲260億円 [▲670億円]	–
			対前年度	**対前回公表**
2025年度 見通し 単独粗鋼生産量 2,150万t 程度 為替 150円/$ 程度 (4Q156円/$ 程度)	事業利益 ※棚卸資産評価差等除き	1,400億円 [1,700億円]	47億円 [▲663億円]	±0億円 [▲200億円]
	セグメント利益 ※棚卸資産評価差等除き	1,100億円 [1,400億円]	▲45億円 [▲755億円]	±0億円 [▲200億円]
	当期利益	750億円	▲168億円	±0億円
	年間配当	80円 (中間配当40円)	▲20円	前回公表通り

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 4

寺畑：業績ハイライトで、概要だけご説明します。

中国の過剰生産、輸出増加による鋼材市況の低迷、アメリカをはじめとする各国の保護主義的な政策に伴う影響等で、当社を取り巻く環境は大変厳しい状況が続いていますが、単独粗鋼生産量は、前回の公表どおり 2,150 万トンと見込んでいます。

一方で、足元の円安に加え、1 月中旬のオーストラリアのサイクロンによる原料炭のスポット市況大幅続伸等から、鋼材コストは急上昇しています。

その中で、今回の年間見通しは、事業利益、セグメント利益、当期利益ともに前回公表どおりと見込んでいます。

ただし、原料炭価格の販価反映時期差により、4 クォーターのスプレッドでの悪化が起きていますので、棚卸資産評価差等を除く事業利益は 1,700 億円と、対前回公表から 200 億円減で見通しています。

なお、年間配当は、前回公表の 8 次中期計画の方針どおり、最低配当の 80 円を見込んでいます。

私からは以上です。

2025年度 第3四半期決算

● 第３四半期累計の事業利益は974億円（対前年同期▲233億円）
※棚卸資産評価差等除き 1,434億円（対前年同期▲643億円）

（億円）	2024年度 実績			2025年度 実績			増減（対前年度）
	上期	10-12月	4-12月累計	上期	10-12月	4-12月累計	4-12月累計
売上収益	24,507	12,246	36,754	22,326	11,476	33,802	▲2,952
事業利益 ※棚卸資産評価差等除き	**818** [1,348]	**388** [728]	**1,207** [2,077]	**457** [937]	**517** [497]	**974** [1,434]	**▲233** [▲643]
金融損益	▲98	▲56	▲155	▲115	▲67	▲182	▲27
セグメント利益 ※棚卸資産評価差等除き	**720** [1,250]	**331** [671]	**1,052** [1,922]	**341** [821]	**451** [431]	**792** [1,252]	**▲260** [▲670]
個別開示項目	▲121	485	364	0	0	0	▲364
税引前利益	599	817	1,417	341	451	792	▲625
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲174	▲241	▲416	▲74	▲109	▲183	233
当期利益	**424**	**576**	**1,001**	**266**	**342**	**608**	**▲393**

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 6

田倉：それでは、私からご説明します。第３四半期決算からご説明します。

まず、10-12 月四半期の実績をご説明します。濃い青の部分の 2 列目です。事業利益は 517 億円、これは前年同期から 128 億円の増益。一方で、棚卸資産評価差等除きでは 497 億円と、前年同期からは 231 億円の減益。当期利益は 342 億円で、234 億円の減益です。

続いて、4 月-12 月の累計です。一番右端の部分です。売上収益は 2,952 億円の減収、事業利益は 233 億円、実力ベースでは 643 億円の減益です。当期利益は、393 億円の減益です。

2025年度 第3四半期決算　セグメント別

（億円）		2024年度 実績 上期	2024年度 実績 10-12月	2024年度 実績 4-12月累計	2025年度 実績 上期	2025年度 実績 10-12月	2025年度 実績 4-12月累計	増減（対前年度） 4-12月累計
	鉄鋼事業	17,293	8,289	25,582	15,374	7,738	23,112	▲2,470
	エンジニアリング事業	2,695	1,524	4,219	2,870	1,483	4,353	134
	商社事業	7,155	3,660	10,816	6,475	3,459	9,934	▲882
	調整額	▲2,635	▲1,228	▲3,864	▲2,394	▲1,203	▲3,597	267
売上収益　計		**24,507**	**12,246**	**36,754**	**22,326**	**11,476**	**33,802**	**▲2,952**
事業利益（A） ※棚卸資産評価差等除き		**818** [1,348]	**388** [728]	**1,207** [2,077]	**457** [937]	**517** [497]	**974** [1,434]	**▲233** [▲643]
金融損益（B）		▲98	▲56	▲155	▲115	▲67	▲182	▲27
	鉄鋼事業 ※棚卸資産評価差等除き	345 [875]	104 [444]	449 [1,319]	▲53 [427]	286 [266]	233 [693]	▲216 [▲626]
	エンジニアリング事業	89	66	155	126	41	167	12
	商社事業	224	136	360	219	107	326	▲34
	調整額	62	24	86	48	16	64	▲22
セグメント利益　計（A）＋（B） ※棚卸資産評価差等除き		**720** [1,250]	**331** [671]	**1,052** [1,922]	**341** [821]	**451** [431]	**792** [1,252]	**▲260** [▲670]

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 7

7 ページは、売上収益、セグメント利益を、セグメント別に分けたものです。

次のページ以降で、それぞれについてご説明しますが、一番右の列の 4 月-12 月の前年同期比で見ますと、スチールがセグメント利益で 216 億円の減益で、セグメント利益全体の 260 億円の減益の大半を占めています。

2024年度4-12月→2025年度4-12月 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール

	単位	2024年度 4-12月	2025年度 4-12月
単独粗鋼生産量	万t	1,656	1,612
単独出荷量	万t	1,453	1,425
鋼材平均価格	千円/t	132.5	119.8
為替レート	円/US$	152.3	148.5

（億円）	2024年度 4-12月	2025年度 4-12月	増減
セグメント利益	**449**	**233**	**▲216**
＊棚卸資産評価差等除き	**1,319**	**693**	**▲626**

内訳

①コスト	**＋180**	・操業改善他
②数量・構成	**▲80**	・粗鋼 1,656万t→1,612万t
③スプレッド＊	**▲620**	・国内外の鋼材市況悪化 ・前年度比円高による輸出採算悪化 ・原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響）
④棚卸資産評価差等	**＋410**	・棚卸資産評価差　▲180（▲300→▲480） ・キャリーオーバー影響　＋580（▲600→▲ 20） ・為替換算差　＋ 10（＋ 30→＋ 40）
⑤その他	**▲106**	・Gr会社　＋210 ・その他　▲316（償却費、金利、工事時期差 等）

＊諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 8

スチールの 4 月-12 月で見たときのセグメント利益の増減の内訳です。

まず前提として、粗鋼生産は 1,612 万トンで 44 万トンの減、鋼材平均価格は 11 万 9,800 円で、前年同期比約 1 万 3,000 円の低下です。為替レートは、約 4 円の円高です。セグメント利益は、この間に 216 億円の減益で、その内訳は下にあります。

まず、コストは、7 月以降に倉敷の 3 高炉でバンキングしています。そういったものを含めての操業改善で 180 億円です。

数量・構成は、粗鋼減 44 万トンの影響が構成改善を上回り、80 億円のマイナス、スプレッドは右に三つの要因を付けていますが、主に国内外の鋼材市況が悪化したことを踏まえて 620 億円のマイナスでした。

一方、棚卸資産評価差は、特に 2 番目のキャリーオーバーの影響は、2024 年度のマイナスの部分が消えたことによる影響等で 410 億円のプラスです。

その他といたしましては、JSW 等、国内外のグループ会社の収益が上がりましたが、その他の費用増加がそれを上回り、106 億円のマイナスとなりました。

2024年度4-12月→2025年度4-12月　セグメント利益増減

JFEエンジニアリング　JFE商事

■エンジニアリング事業

- 25年10-12月期は工事構成差により減収・減益となるも、受注済プロジェクトの着実な遂行の結果、3Q累計では前年同期比増収・増益

(億円)	24年度実績			25年度実績			増減（対前年度）		
	上期	10-12月	4－12月	上期	10-12月	4－12月	上期	10-12月	4－12月
受注高	2,460	1,003	3,463	3,630	2,133	5,763	1,170	1,130	2,300
売上収益	2,695	1,524	4,219	2,870	1,483	4,353	175	▲41	134
セグメント利益	89	66	155	126	41	167	37	▲25	12

■商社事業

- 国内外での鋼材市況の下落、および販売数量の減少により前年同期比減収・減益

(億円)	24年度実績			25年度実績			増減（対前年度）		
	上期	10-12月	4－12月	上期	10-12月	4－12月	上期	10-12月	4－12月
売上収益	7,155	3,660	10,816	6,475	3,459	9,934	▲680	▲201	▲882
セグメント利益	224	136	360	219	107	326	▲5	▲29	▲34

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 9

エンジニアリング事業と商社事業です。

エンジニアリング事業は、10-12 月はこちらに書いているとおり、工事構成差により、前年同期から 41 億円の減収、25 億円の減益となっていますが、3 クォーター累計では、前年同期比から 134 億円の増収、12 億円の増益となっています。

商社事業は、国内外での鋼材市況の下落、販売数量の減少により、前年同期比で、累計で 882 億円の減収、34 億円の減益です。

2025年度 業績見通し

JFE

● 事業利益・当期利益共に前回公表通りを見込む。
※棚卸資産評価差等除きの事業利益は1,700億円（対前回公表▲200億円）

(億円)	2024年度 実績	2025年度 見通し(前回)	2025年度 見通し(今回)					増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	年間	年間	上期 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月	下期	年間	年間	年間
売上収益	48,596	46,000	22,326	11,476	12,198	23,674	46,000	▲2,596	0
事業利益 ※棚卸資産評価差等除き	**1,353** [2,363]	**1,400** [1,900]	**457** [937]	**517** [497]	**426** [266]	**943** [763]	**1,400** [1,700]	**47** [▲663]	**0** [▲200]
金融損益	▲207	▲300	▲115	▲67	▲118	▲185	▲300	▲93	0
セグメント利益 ※棚卸資産評価差等除き	**1,145** [2,155]	**1,100** [1,600]	**341** [821]	**451** [431]	**308** [148]	**759** [579]	**1,100** [1,400]	**▲45** [▲755]	**0** [▲200]
個別開示項目	297	0	0	0	0	0	0	▲297	0
税引前利益	1,443	1,100	341	451	308	759	1,100	▲343	0
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲524	▲350	▲74	▲109	▲167	▲276	▲350	174	0
当期利益	**918**	**750**	**266**	**342**	**142**	**484**	**750**	**▲168**	**0**

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 11

2025 年の業績見通しです。

これまでご説明した 4 月-12 月の実績に加え、1-3 月の業績見通しを加えたものです。年間見通しは、一番右の列を見ていただくと、ご覧のとおり、基本的に前回見通しどおりです。

ハイライトで申し上げたとおり、棚卸資産評価差等除きの事業利益とセグメント利益は、前回公表比でそれぞれ 200 億円の悪化となっています。

2025年度 業績見通し　セグメント別

(億円)	2024年度 実績 年間	2025年度 見通し(前回) 年間	2025年度 見通し(今回) 上期(実績)	10-12月(実績)	1-3月	下期	年間	増減(対前年度) 年間	増減(対前回公表) 年間
鉄鋼事業	33,651	30,800	15,374	7,738	7,888	15,626	31,000	▲2,651	200
エンジニアリング事業	5,698	6,000	2,870	1,483	1,647	3,130	6,000	302	0
商社事業	14,385	13,500	6,475	3,459	3,566	7,025	13,500	▲885	0
調整額	▲5,139	▲4,300	▲2,394	▲1,203	▲903	▲2,106	▲4,500	639	▲200
売上収益　計	**48,596**	**46,000**	**22,326**	**11,476**	**12,198**	**23,674**	**46,000**	**▲2,596**	**0**
事業利益（A） **※棚卸資産評価差等除き**	**1,353** **[2,363]**	**1,400** **[1,900]**	**457** **[937]**	**517** **[497]**	**426** **[266]**	**943** **[763]**	**1,400** **[1,700]**	**47** **[▲663]**	**0** **[▲200]**
金融損益（B）	▲207	▲300	▲115	▲67	▲118	▲185	▲300	▲93	0
鉄鋼事業 ※棚卸資産評価差等除き	363 [1,373]	400 [900]	▲53 [427]	286 [266]	167 [7]	453 [273]	400 [700]	37 [▲673]	0 [▲200]
エンジニアリング事業	193	200	126	41	33	74	200	7	0
商社事業	479	450	219	107	124	231	450	▲29	0
調整額	108	50	48	16	▲14	2	50	▲58	0
セグメント利益　計 (A) + (B) **※棚卸資産評価差等除き**	**1,145** **[2,155]**	**1,100** **[1,600]**	**341** **[821]**	**451** **[431]**	**308** **[148]**	**759** **[579]**	**1,100** **[1,400]**	**▲45** **[▲755]**	**0** **[▲200]**

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 12

セグメント別に開いたものです。

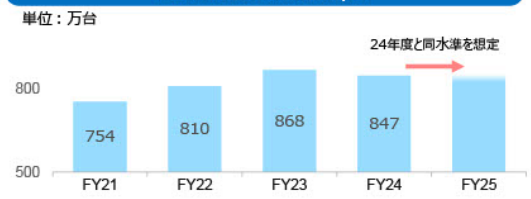
前回公表との差としては、スチールの売上収益が 200 億円の微増、棚卸資産評価差等除きのセグメント利益が 200 億円の悪化となっています。

足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

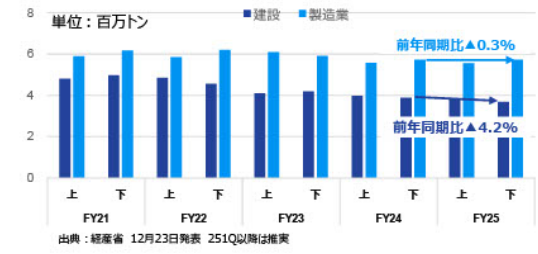
JFEスチール

- 人口減少や経済鈍化等により鋼材需要は減少傾向が続き厳しい状況
  - 製造業：米国関税政策、保護主義の動きはリスク要因として要注視
  - 建設業：**建設コスト上昇・人手不足の影響を背景に低迷が継続**

自動車生産台数見通し/年



国内普通鋼 鋼材消費見通し/Q



出典：経産省 12月23日発表 251Q以降は推実

分野別動向

自動車	・輸出向けは**米国関税政策の影響が依然リスク要因**。完成車輸出・生産への影響は現時点では限定的であるものの引き続き注視必要。 ・国内販売は大きな盛り上がりに欠け、足元想定は25年期初に見込んだ販売台数から大きな変化はなし。
造船	・引き続き堅調な需要環境にあり、国内造船各社は**約3年分を超える受注残を確保**。 ・人手不足や労働時間規制等により建造ピッチが上がらない状況は継続。 ・日本造船業の競争力強化に向けて**資本提携や協業の動きが活発化**しており、今後の投資、生産効率化などの動向を注視。
その他製造業	（建機） ・25年8月に鉄鋼派生製品関税に建機も追加されたこともあり懸念が強まっている状況。 ・全世界的な需要低迷の環境、関税影響による不透明性は継続。 （産機） ・米国の自動車関税・相互関税の動向・影響に注視が必要な状況。
建築	・人手不足の影響に加え、資材高騰などの建設コストや金利の上昇等を背景とした建設投資・住宅取得マインドへの影響は根深く、**総じて需要は低調**。
土木	・各種コストの上昇や人手不足等の影響を受け、**実質的な活動水準や鋼材需要は昨年比減**を見込む。

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 14

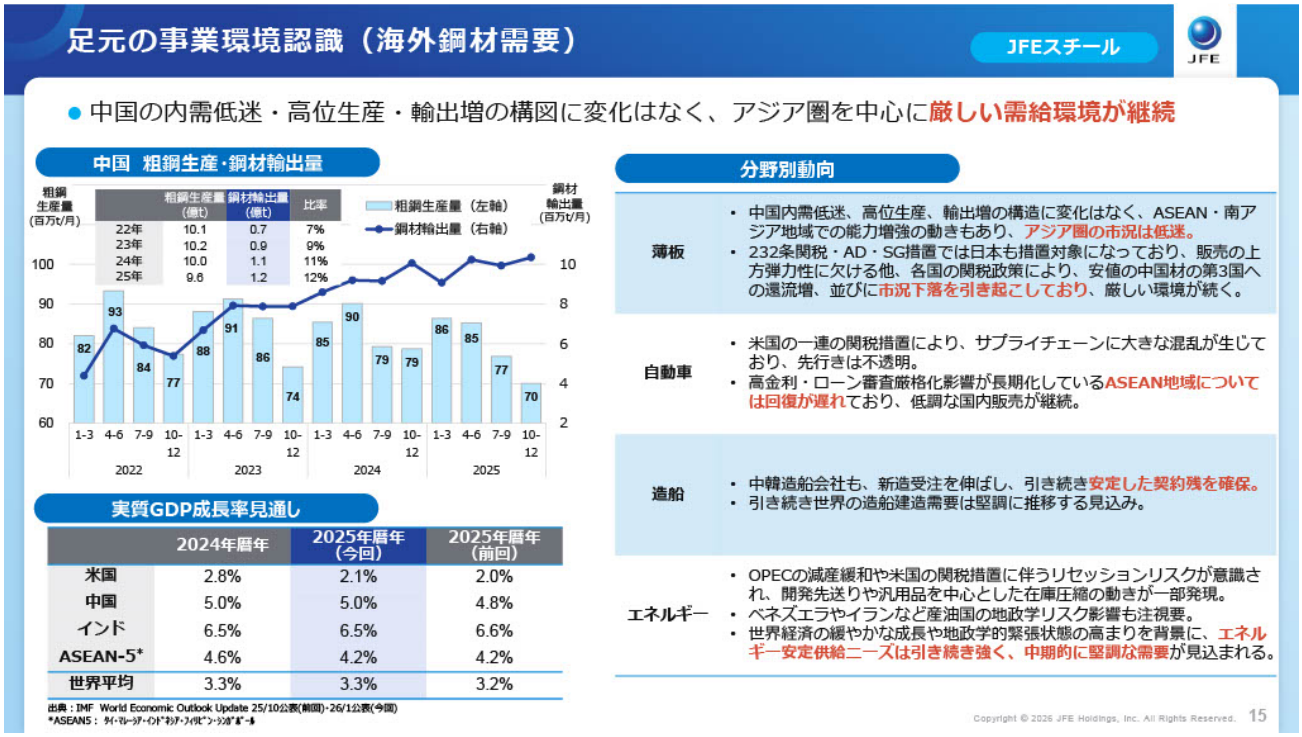
スチールの業績見通しです。

事業環境認識で、国内から申し上げると、コロナ以降、人口減少、経済鈍化により、鋼材需要は減少傾向が続き、非常に厳しい状況です。

製造業は、米国関税政策等、保護主義の動きが、依然としてリスク要因として注視しなければいけないところです。建設業は、建設コストの上昇、人手不足の影響が続いており、低迷が継続しています。

下に、自動車生産台数見通しを付けています。分野別動向のところにも書いていますが、米国関税影響が依然としてリスク要因として残っていること、国内販売も大きな盛り上がりに欠けているということで、自動車生産台数の年間部分は、2024 年とほぼ同等のレベルではないかと想定しています。

その下に普通鋼の鋼材消費見通しの、四半期ごとの量を記載しています。2021 年から建設・製造業ともに減少が続いていますが、特に足元では、建設向けの部分が、2024 年度下期と比べて 4.2% 下がるという、かなり大幅なダウンとなっています。

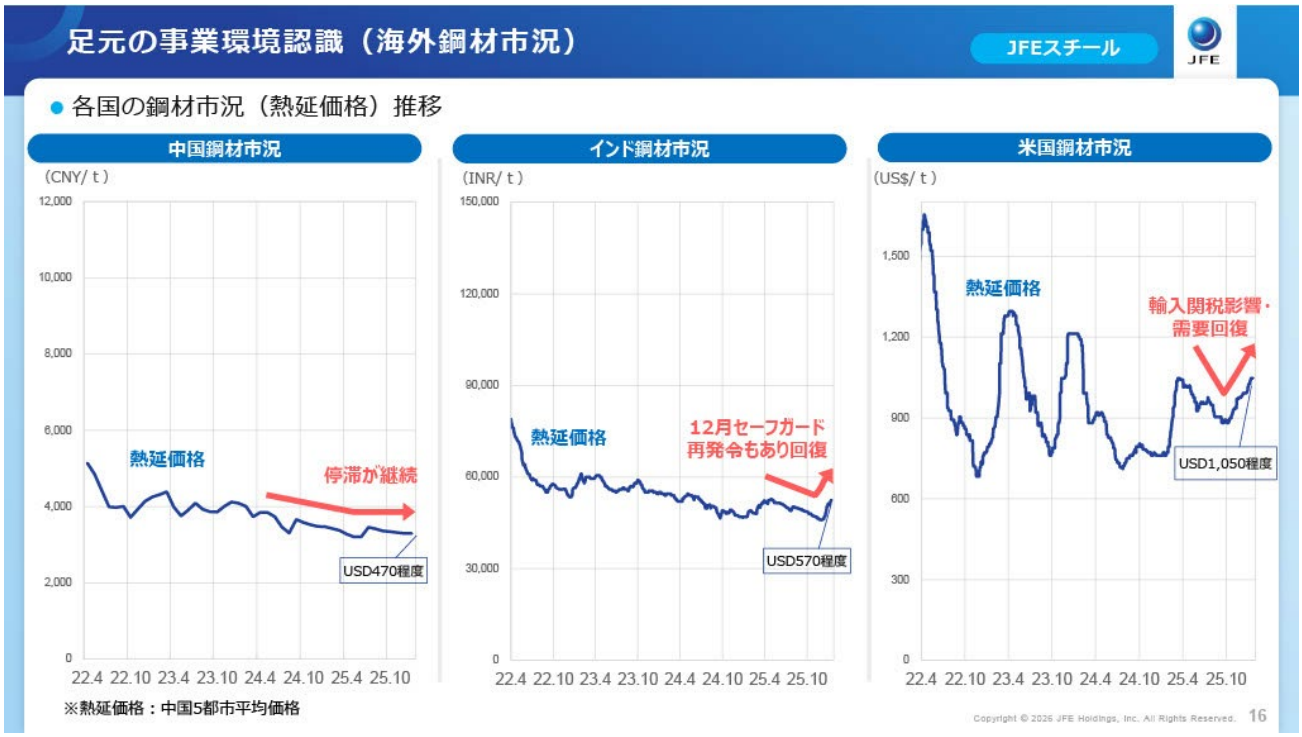


海外です。中国発の市況低迷という構図は変化がありません。アジアを中心に厳しい需給環境が続いているのが現状です。

左上のグラフに、中国の粗鋼生産と鋼材輸出量の推移が書いています。中国の粗鋼生産は、昨年末にかけてやや下げ基調ではありましたが、年明け以降にまた急激に上昇しているといった模様も出てきています。

鋼材輸出は、10-12 月は 1,000 万トンを超えるレベルで、非常に厳しい状況だと思っています。

分野別動向は、前回の見通しのときから大きな変化はありませんが、特に薄板は、保護主義の動きもあり、大変厳しい状況が続いていると認識しています。



主要市場の市況です。

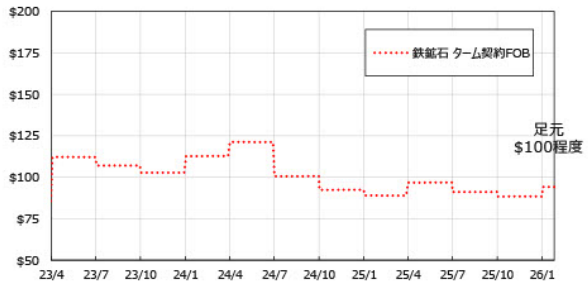
中国は依然として停滞が続いています。インドは、12 月に、あらためて 3 年間のセーフガードの再発令もあったということで、回復基調です。米国は、当初は貿易政策を巡る不透明感から低下していましたが、そういった部分も薄れてきたことで、足元の需要回復の動きから、10 月以降、市況は戻ってきている状況です。

原料市況動向

JFEスチール

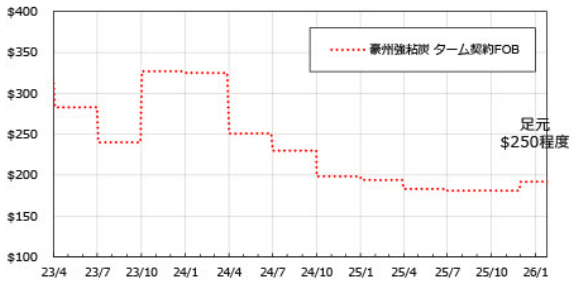
- 鉄鉱石：1-3月期契約価格は$94（対前四半期+$6）で決着
- 原料炭：1月中旬の豪州サイクロン影響で、**足元の需給が急速にタイト化**

鉄鉱石（豪州粉鉱） (US$/DMT)



ターム契約FOB (US$/DMT)	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
2023年度	112	107	103	113
2024年度	121	101	92	89
2025年度	97	91	88	94

原料炭（豪州強粘炭） (US$/WMT)



ターム契約FOB (US$/WMT)	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
2023年度	283	240	327	325
2024年度	251	230	198	194
2025年度	183	181	192	-

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 17

原料です。鉄鉱石は、1-3 月で決着しており、前四半期から 6 ドルプラスの 94 ドルです。

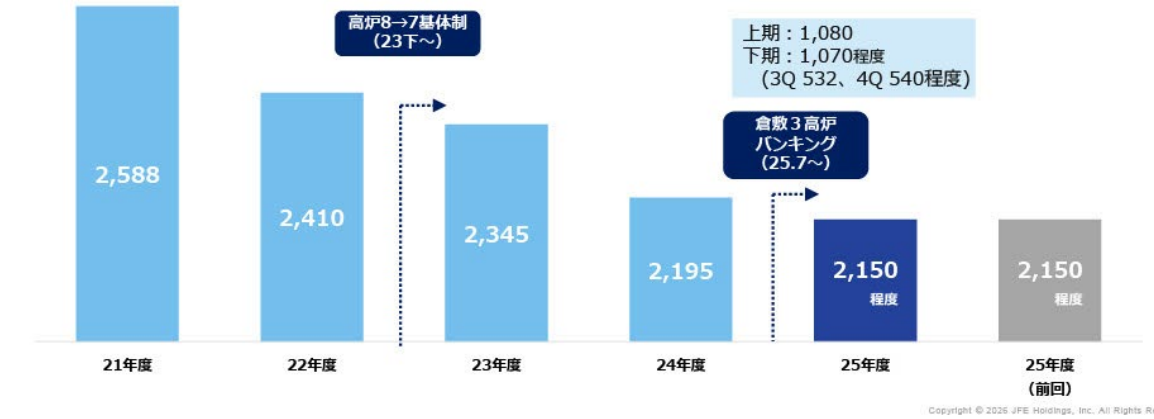
原料炭は、1 月中旬のサイクロンの影響もあり、足元の需給がタイト化しており、足元 250 ドル程度です。2 月末までこういった数字が続くと、1-3 月については 230 ドル程度になると想定しており、前四半期からは 40 ドル近いアップで、この前提で今回の業績見通しも織り込ませていただいています。

粗鋼生産量

JFEスチール

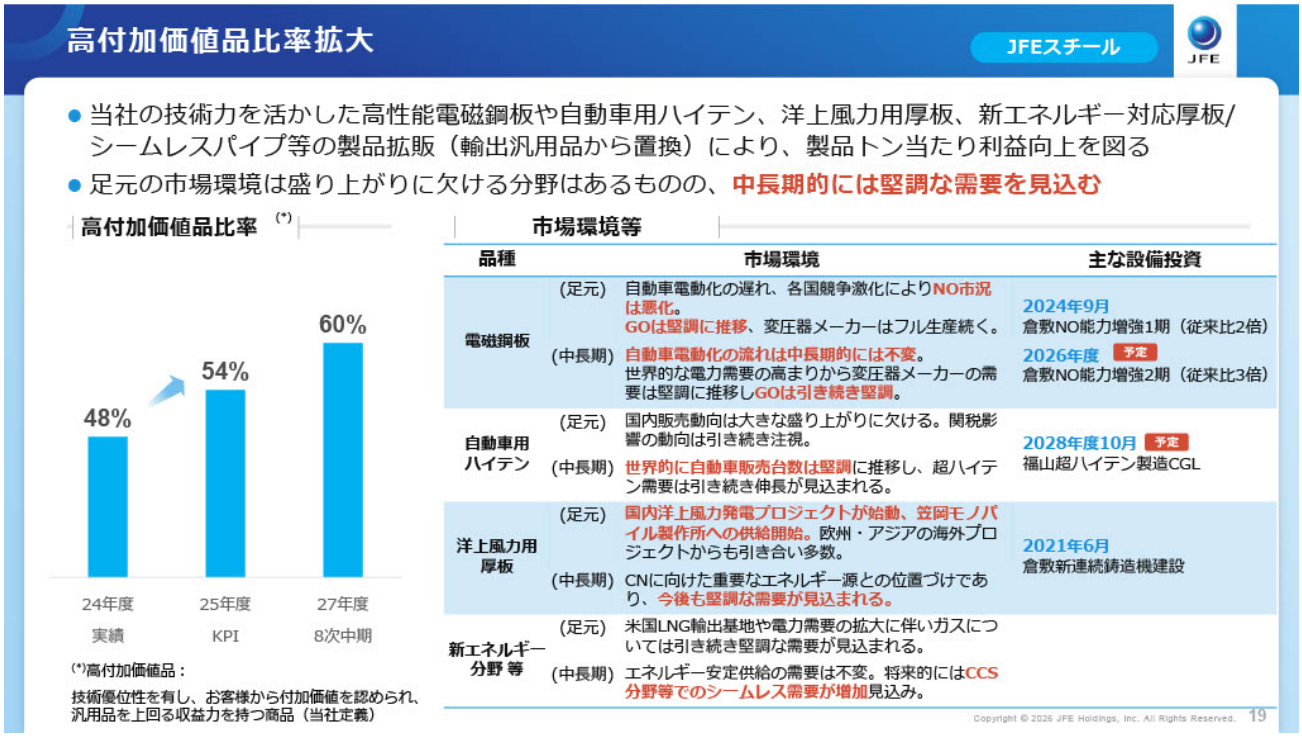
- 2025年度単独粗鋼生産量は2,150万トン程度を見込む**（前回公表通り）**

単独粗鋼生産量［年度］ 単位：万t



Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 18

粗鋼生産は、最初に申し上げたとおり、前回公表どおり 2,150 万トンで、下期は 1,070 万トン、3Q と 4Q はほぼ同じレベルです。



高付加価値品の比率拡大のページです。

当社は量から質への転換を進めており、高付加価値品比率を段階的に引き上げ、8 次中期には 60%まで引き上げるということで、2025 年の KPI は 54%を設定しています。

分野別動向にも記載していますが、足元の市場環境は盛り上がりに欠ける分野がありますが、足元で言うと、電磁鋼板、洋上風力向けの厚板といったものを中心に、拡販を進めています。

JFEスチール　2025年度 業績見通し

JFEスチール

	単位	2024年度 上期	2024年度 10-12月	2024年度 1-3月	2024年度 下期	2024年度 年間	2025年度 上期	2025年度 10-12月	2025年度 1-3月	2025年度 下期	2025年度 年間	2025年度 前回見通し（年間）
売上収益	億円	17,293	8,289	8,069	16,358	33,651	15,374	7,738	7,888	15,626	31,000	30,800
セグメント利益	億円	345	104	▲86	18	363	▲53	286	167	453	400	400
棚卸資産評価差等除き*	億円	875	444	54	498	1,373	427	266	7	273	700	900
単独粗鋼生産量	万t	1,103	553	539	1,091	2,195	1,080	532	540程度	1,070程度	2,150程度	2,150程度
連結粗鋼生産量	万t	1,169	583	567	1,150	2,320	1,142	559	570程度	1,130程度	2,270程度	
単独鋼材出荷量	万t	966	487	484	971	1,936	953	472	480程度	950程度	1,900程度	
鋼材輸出比率（単独・金額ベース）	%	42.4	40.0	41.9	40.9	41.7	41.3	41.1	41程度	41程度	41程度	
鋼材平均価格	千円/t	135.2	127.0	124.0	125.5	130.3	119.8	120.0	121程度	121程度	120程度	
為替レート	円/US$	153.9	149.0	154.1	151.6	152.7	146.2	153.2	156程度	154程度	150程度	148程度
期末為替レート	円/US$	142.7	158.2	149.5	149.5	149.5	148.9	156.6	155程度	155程度	155程度	150程度

＊セグメント利益から、棚卸資産評価差、キャリーオーバー、為替換算差等を除いた損益

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 20

業績見通しに関連する諸元です。

下半分の表の一番上の部分の単独粗鋼生産量は下期 1,070 万トンで、ほぼ上期並みです。三つ下の鋼材輸出比率は 2025 年下期 41%程度で、こちらも上期並み、鋼材平均価格も 12 万 1,000 円程度で、こちらも上期とほぼ同等の水準です。

一方、為替レートは 1 月以降の円安もあり、下期 154 円で上期と比べ約 8 円の円安です。

2025年度 前回→今回　セグメント利益 増減内訳

JFEスチール

	単位	2025年度 前回	2025年度 今回
単独粗鋼生産量	万t	2,150程度	2,150程度
単独出荷量	万t	—	1,900程度
鋼材平均価格	千円/t	—	120程度
為替レート	円/US$	148程度	150程度

（億円）	2025年度 前回見通し	2025年度 今回見通し	増減
セグメント利益	400	400	±0
＊棚卸資産評価差等除き	900	700	▲200

内訳

①コスト	±0	
②数量・構成	±0	・粗鋼 2,150万t程度→2,150万t程度
③スプレッド*	▲250	・主原料価格高騰
④棚卸資産評価差等	＋200	・棚卸資産評価差　＋ 20（▲470→▲450） ・キャリーオーバー影響　＋130（▲ 10→＋120） ・為替換算差　＋ 50（▲ 20→＋ 30）
⑤その他	＋50	・Gr会社　＋20

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 21

前回・今回の差です。

粗鋼生産の変化はありませんが、為替レートは前回よりも 2 円の円安で見込んでいます。

セグメント利益はプラスマイナスゼロ、実力ベースで 200 億円のマイナスでしたが、③のスプレッドは、先ほど申し上げたとおり、1 月以降の原料炭の高騰により 250 億円のマイナスで、実力悪化の主要因ということです。

一方で、キャリーオーバー、為替換算差を中心にプラスで戻して 200 億円のプラス、その他として、グループ会社等で 50 億円のプラスとなっています。

2024年度→2025年度　セグメント利益 増減内訳

JFEスチール

	単位	2024年度 実績	2025年度 見通し
単独粗鋼生産量	万t	2,195	2,150程度
単独出荷量	万t	1,936	1,900程度
鋼材平均価格	千円/t	130.3	120程度
為替レート	円/US$	152.7	150程度

（億円）	2024年度 実績	2025年度 見通し	増減
セグメント利益	363	400	+37
＊棚卸資産評価差等除き	1,373	700	▲673

内訳

①コスト	+270	・操業改善他
②数量・構成	▲90	・粗鋼 2,195万t→2,150万t程度 ・高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	▲780	・国内外の鋼材市況悪化 ・原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響） ・前年度比円高による輸出採算悪化
④棚卸資産評価差等	+710	・棚卸資産評価差　▲120 (▲330→▲450) ・キャリーオーバー影響　+780 (▲660→+120) ・為替換算差　+ 50 (▲ 20→+ 30)
⑤その他	▲73	・Gr会社　+280 ・その他　▲353（償却費、金利、工事時期差 等）

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 22

今申し上げた分析を、前回の比較に反映したものが以下の部分です。詳細な数字のご説明は割愛しますが、2024 年・2025 年の比較で言うと 37 億円のプラス、ただし実力ベースでは 673 億円の悪化です。

コスト削減として、270 億円のコストダウンを実現する見通しですが、45 万トンの数量減、スプレッドの大幅悪化がこれを上回り、実力利益として大幅な悪化になったということです。このスプレッドの 780 億円のうち、三つの要因を付けていますが、やはり国内外の鋼材市況の悪化が主要因です。

棚卸資産評価差等は、ご覧のとおり、キャリーオーバーで、前年度は大幅なマイナスがあったことの解消もあり 710 億円のプラスです。

その他としては、グループ会社 280 億円のプラスに対して、その他が 353 億円のマイナスです。

2025年度上期→下期　セグメント利益 増減内訳

JFEスチール

	単位	2025年度 上期実績	2025年度 下期見通し
単独粗鋼生産量	万t	1,080	1,070程度
単独出荷量	万t	953	950程度
鋼材平均価格	千円/t	119.8	121程度
為替レート	円/US$	146.2	154程度

（億円）	2025年度 上期実績	2025年度 下期見通し	増減
セグメント利益	▲53	453	+506
＊棚卸資産評価差等除き	427	273	▲154

内訳

①コスト	+100	・操業改善
②数量・構成	+20	・粗鋼 1,080万t→1,070万t程度 ・高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	▲350	・国内外の鋼材市況悪化 ・主原料価格高騰 ・原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響） ・円安による輸出採算改善
④棚卸資産評価差等	+660	・棚卸資産評価差　+390 (▲420→▲ 30) ・キャリーオーバー影響　+180 (▲ 30→+150) ・為替換算差　+ 90 (▲ 30→+ 60)
⑤その他	+76	・Gr会社　+80

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 23

上期・下期の比較です。

粗鋼生産は 10 万トン減、為替レートは 8 円の円安の前提で織り込んでおり、セグメント利益は 506 億円のプラス、実力ベースでは 154 億円のマイナスです。

コストは、下期に 100 億円の積み増しを行います。

スプレッドは 350 億円のマイナスです。前回公表のタイミングでは、マイナス 100 億円と入れておりましたが、足元の石炭の高騰や円安も含めて 250 億円さらに悪化するということで、350 億円のマイナスです。

棚卸資産評価差等は、ご覧のとおりプラス 660 億円です。

その他は、グループ会社を中心にプラス 76 億円となっています。

JFEエンジニアリング　2025年度 業績見通し

JFEエンジニアリング

■ 足元の事業環境/損益概況

- 年間セグメント利益は、**200億円**を見込む（**前回公表通り**）
- Waste to Resource分野、カーボンニュートラル分野（洋上風力、LNG等）で受注拡大を見込む（対前回見通し：WtR ＋350億円、CN ＋100億円）
- 洋上風力モノパイル事業は**25年12月に「秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖における洋上風力発電事業」向け案件を初受注**、25年度中に笠岡モノパイル製作所で製造開始（P33 詳細記載）

■ 業績見通し

（億円）	24年度実績			25年度見通し（前回）	25年度見通し（今回）			増減（対前年度）			増減（対前回）
	上期	下期	年間	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
受注高	2,460	3,335	5,795	7,000	3,630	3,870	7,500	1,170	535	1,705	500
売上収益	2,695	3,003	5,698	6,000	2,870	3,130	6,000	175	127	302	0
セグメント利益	89	104	193	200	126	74	200	37	▲30	7	0

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 25

エンジニアリングの業績見通しです。前回公表どおり、200 億円です。

なお、下の表の一番上の受注が 7,500 億円で、これまでの過去最高だった去年の受注を 1,700 億円上回り、かつ前回からも 500 億円の拡大が進んでいるということで、上のテキストの 2 番目にある Waste to Resource 分野、洋上風力、LNG の受注拡大が進んでいるということです。

すでに 12 月に発表していますが、ラウンド 2 の一つである秋田県沖の洋上風力発電事業のモノパイル製造・輸送案件を受注しています。2025 年度中に、笠岡での製造が開始される見通しです。これは後ほど、またあらためてご説明します。

JFE商事　2025年度 業績見通し

JFE商事

■ 足元の事業環境/損益概況

● 国内の建設需要の低迷継続や通商施策の影響による輸出取引減に加え、国内外の市況下落により、年間セグメント利益は、**450億円**を見込む（**前回公表通り**）

■ 業績見通し

（億円）	24年度実績 上期	24年度実績 下期	24年度実績 年間	25年度見通し（前回） 年間	25年度見通し（今回） 上期	25年度見通し（今回） 下期	25年度見通し（今回） 年間	増減（対前年度） 上期	増減（対前年度） 下期	増減（対前年度） 年間	増減（対前回） 年間
売上収益	7,155	7,230	14,385	13,500	6,475	7,025	13,500	▲680	▲205	▲885	0
セグメント利益	224	255	479	450	219	231	450	▲5	▲24	▲29	0

Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 27

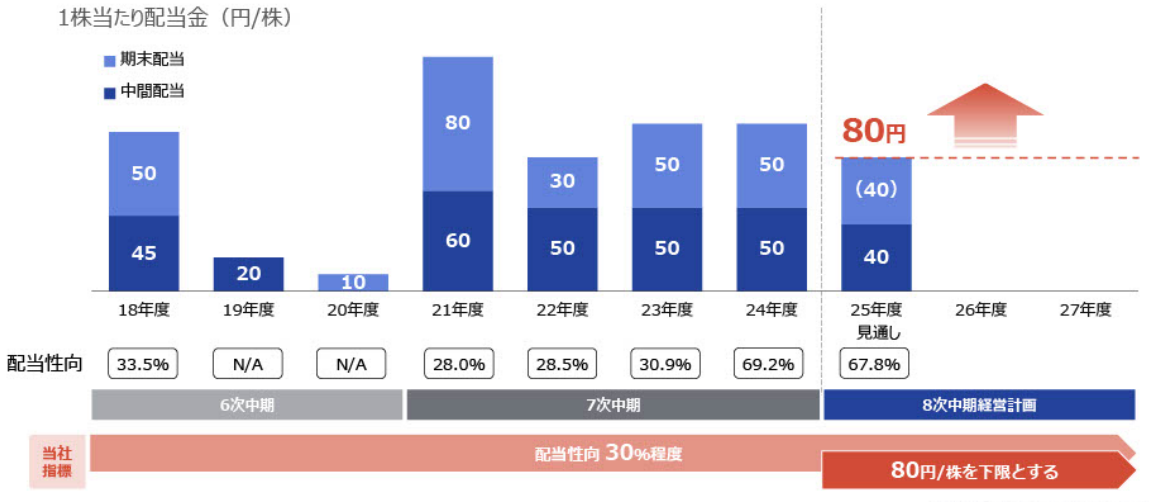
商社です。国内の建設需要の低迷、輸出の取引減、市況下落といった厳しい状況にあり、年間セグメント利益は前年度から 29 億円減益である 450 億円と、前回公表どおりです。

配当について

● 期末配当については、1株当たり40円の見通し

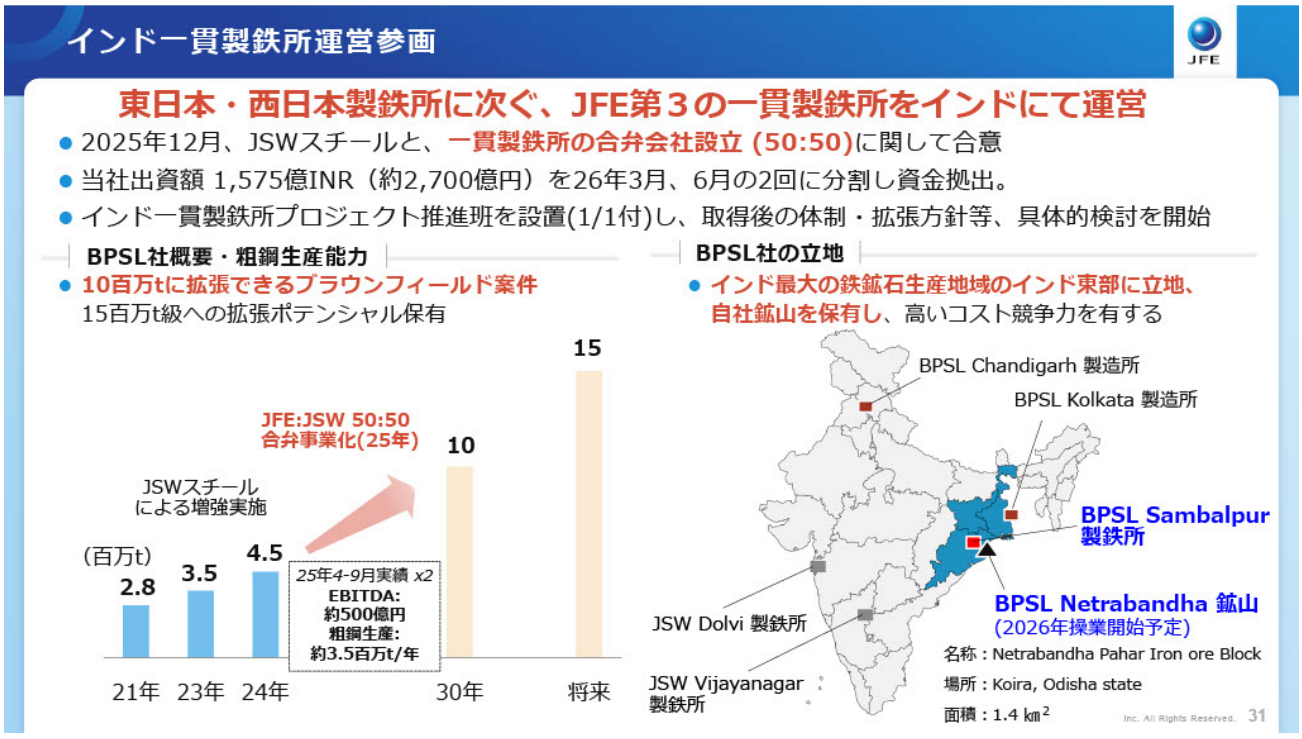
● 年間配当については、**1株当たり80円の見通し（8次中期経営計画方針(*)通り）**

(*) 配当性向30%程度、但し、年間80円/株を下限とする



Copyright © 2026 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 29

配当です。最初の部分で申し上げたとおり、期末配当については 40 円、年間配当は 80 円の見通しです。



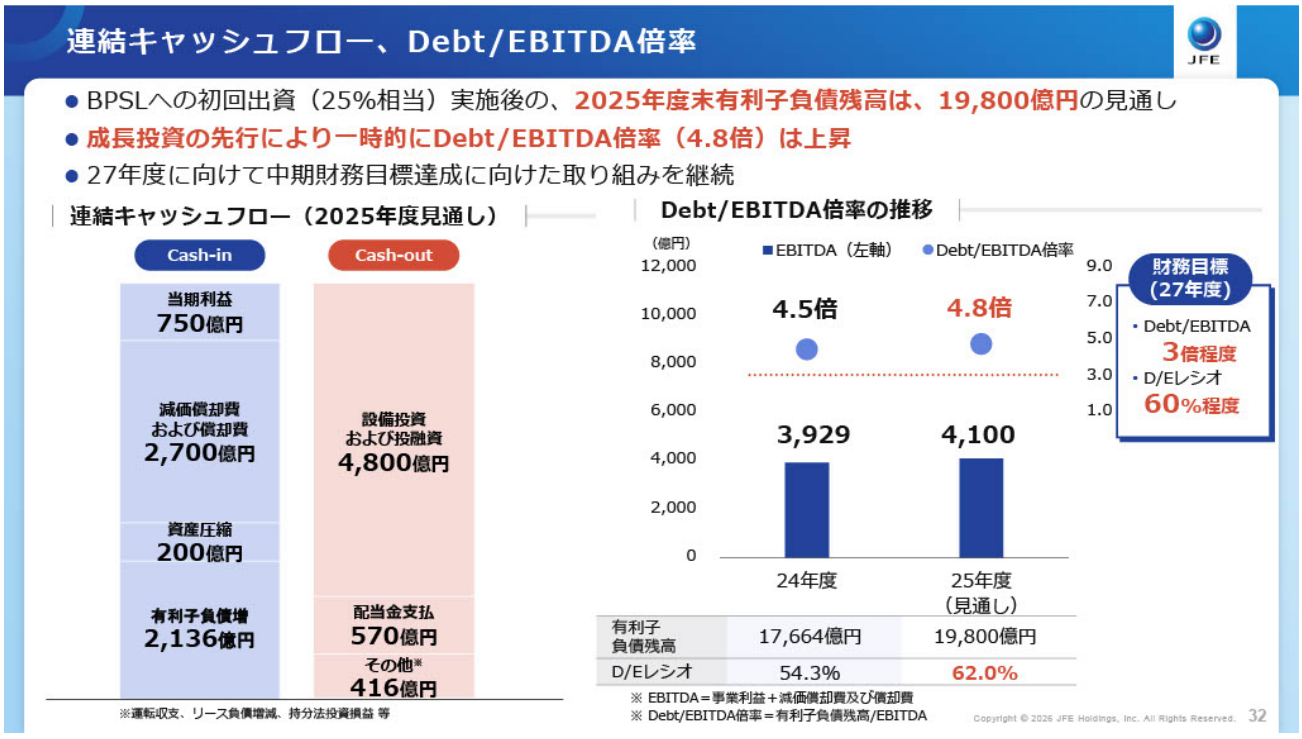
トピックスは三つ用意しています。

まず、2025 年 12 月に発表しているもので、ご説明会も開きましたが、再掲として、JSW スチールと一貫製鉄所 BPSL 社を 50 対 50 の合弁事業で運営することを発表しています。

当社の出資額としては 2,700 億円を、今年の 3 月、6 月の 2 回に分割して資金拠出する予定です。すでに、プロジェクト推進班を設置し、今後の具体的な展開の検討を開始しています。

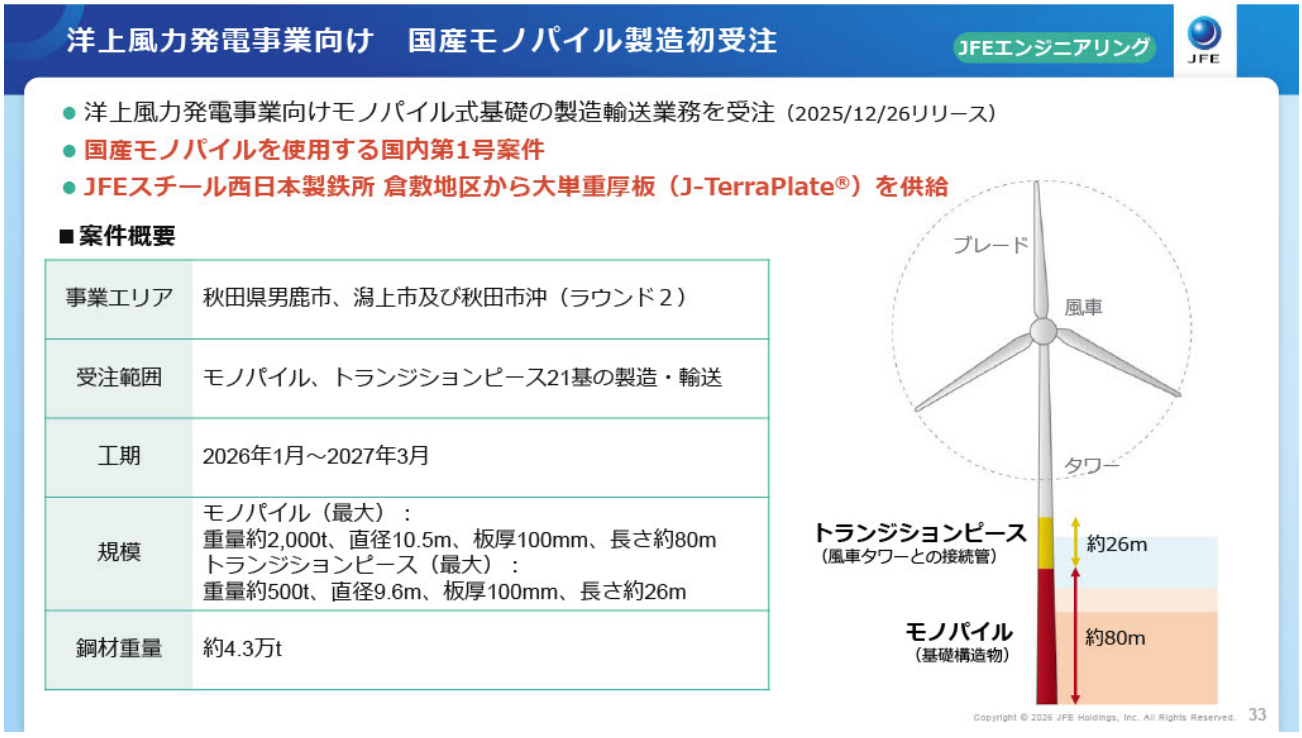
下に、BPSL 社の特徴を二つまとめています。足元の 2024 年段階で 450 万トンの生産能力を有していますが、すでに 1,000 万トンへ拡張する土地を保有しており、2030 年を目標に拡張していくということ、将来的には 1,500 万トンまでの拡張ポテンシャルを保有しているのが一つ目です。

立地として、Odisha 州はインド最大の鉄鉱石生産地域です。自社鉱山も保有しているということで高いコスト競争力を有しており、これを東西に次ぐ第 3 の製鉄所として位置づけ、海外事業収益の拡大に取り組んでまいります。



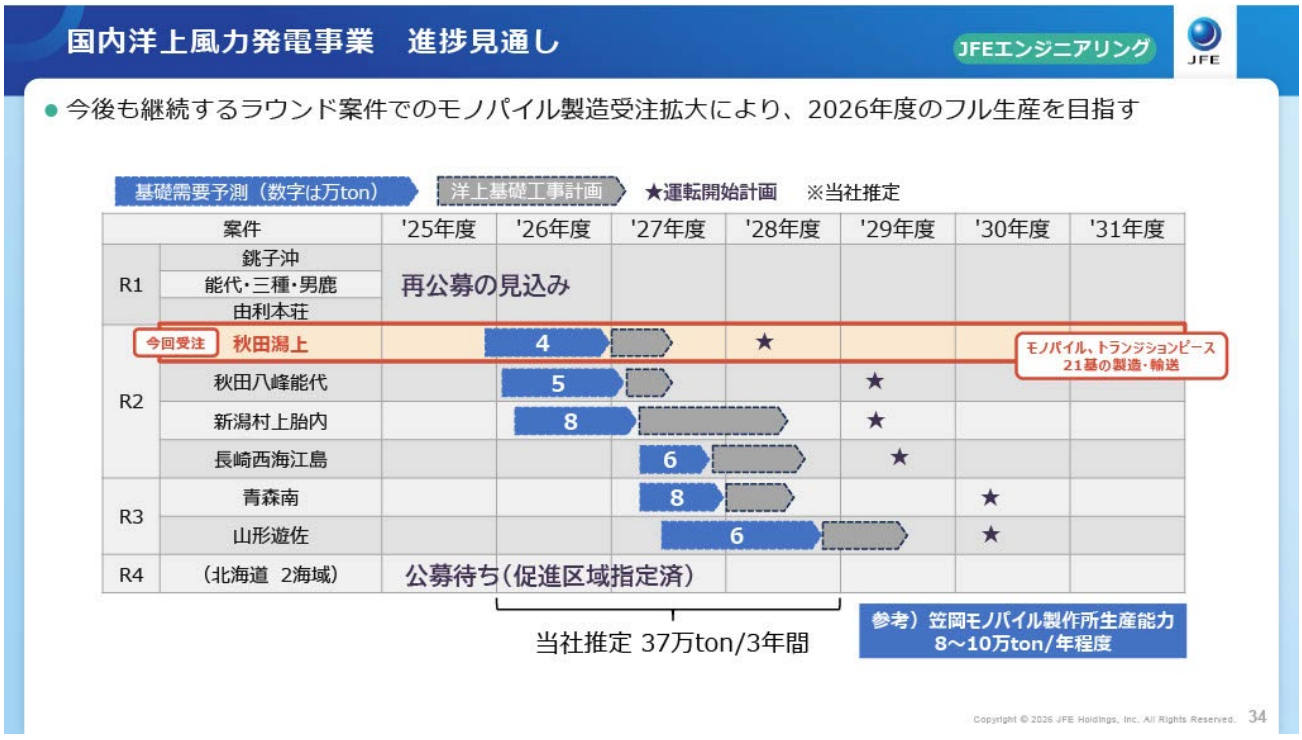
今回、BPSL の初回出資を実施した後の有利子負債残高は、1 兆 9,800 億円の見通しです。

今件のような成長投資の先行を 8 次中期で計画しており、一時的に Debt/EBITDA 倍率等は上昇しますが、2027 年度に向け、中期財務目標の達成に向けた取り組みは継続してまいりたいと考えています。



洋上風力発電事業向けの部分です。先ほど申し上げたとおり、エンジニアリング事業として、国内モノパイルで使用する案件です。

JFE スチールとして、倉敷地区から大単重厚板 J-TerraPlate を供給します。受注内容を下に書いていますが、モノパイル、トランジション 21 基、モノパイルは最大で重量約 2,000 トン、長さ 80 メートルです。



こちらの表は、この後のラウンド案件の見通しです。

なお、今回の秋田潟上以降も順次計画がなされているということ、ラウンド 1 も再公募の見込みで、ラウンド 4 についても促進区域がすでに指定されており、公募待ちで進捗している状況がおわかりいただけるかと思います。

当社としては国内供給のアドバンテージを活かして、今後も継続するラウンド案件での受注拡大をすることで、2026 年度のフル生産を目指してまいります。

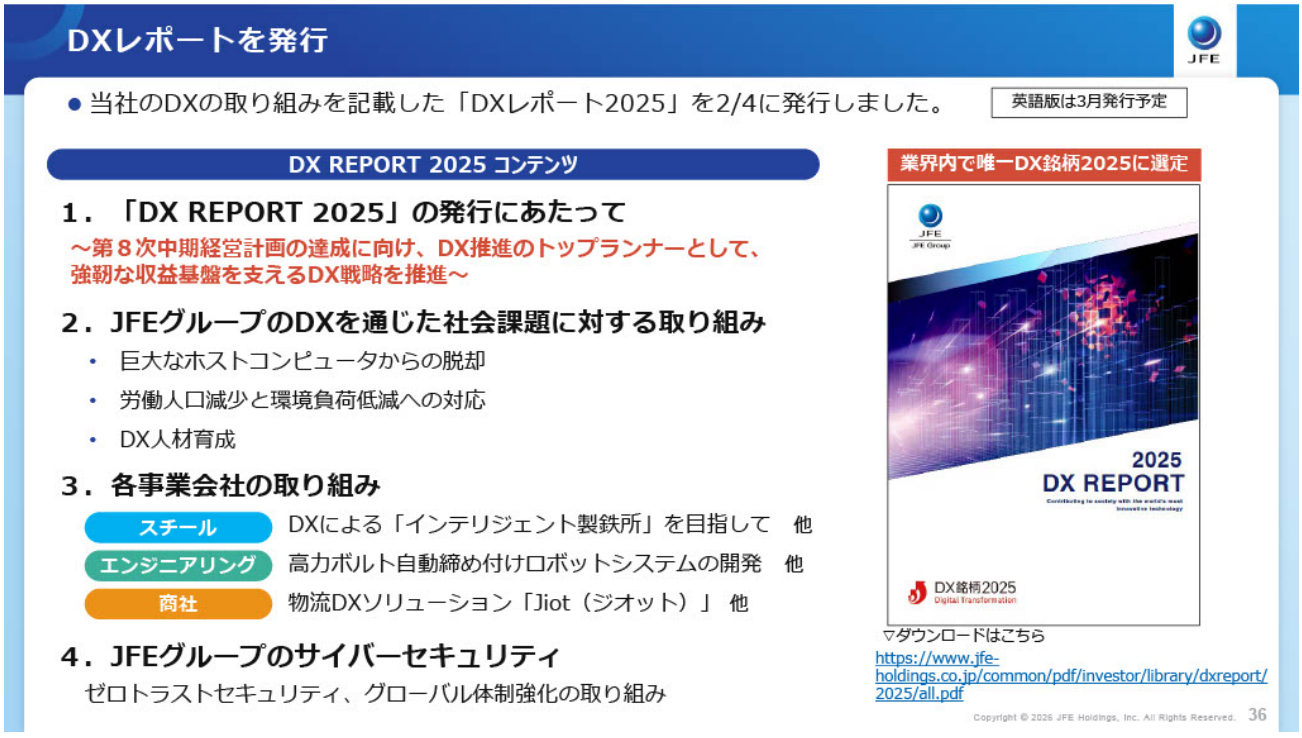
エンジニアリング他の、グループ全体での洋上風力事業モデルをまとめました。

素材提供から運転・保守に至るまで、JFE グループの総合力を活かしてまいります。

この下の表の一つ目の素材提供は、JFE スチールの部分ですが、アジア最大級の大単重厚板が製造可能ということで、これは世界的にもこういったことのできるメーカーは限られており、すでに欧州・アジアのプロジェクトにも適用され、今回国内で採用されたということです。

また、12 月に発表していますが、国内用の最大板厚 130 ミリの厚板も開発していますので、今後の大型の洋上風力の導入に貢献できると思っています。

三つ下の運転保守につきましては、JFE エンジニアリングは、すでに富山県入善で、洋上風力発電で O&M を担っています。こうした実績をアピールし、ラウンド案件でも受注を取っていきたいと考えています。



最後に、DX レポートです。

当社は、DX 戦略を重要な経営戦略の一つと位置づけて取り組みを進めています。こうした取り組みは評価されていて、今年度についても業界内で唯一、DX 銘柄に選定されています。

今般、その取り組みを DX REPORT 2025 として取りまとめ、昨日発行しました。本レポートでは、特に DX を担う人材の育成への取り組み、社会的にも注目されているサイバー攻撃等の脅威に対しても、グループ全体として取り組みを進めているといった内容を紹介していますので、ぜひご一読いただければと思っています。

以上、ご説明させていただきました。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移ります。

質問者：主原料価格に連動する紐付き分野、いわゆる「紐付き価格」が参照する原料価格については、鉄鉱石は年度である一方で、原料炭は暦年参照だと思いますので、足元の 1-3 月の原料炭価格が上昇してきている部分は、今年度の価格には反映されない影響があると思います。この紐付き分野の来期以降の価格転嫁の見通しと、紐付き以外の国内の交渉分野、輸出の鋼材価格の改定状況について教えてください。

ＪＦＥ：国内出荷のおよそ半分は主原料連動で価格が決まるスキームであり、主原料価格は四半期遅れで鋼材価格に反映されます。1-3 月の原料炭価格は 2 月末に確定し、来期の価格のフォーミュラに反映されますので、足元の 1-3 月の原料炭価格高騰分のうち、約 100 億円に関しては来期に転嫁が見込めます。紐付き以外の国内の交渉分野、輸出については、価格転嫁を進めるべく、個別に価格交渉をしています。

質問者：鉄鋼事業では、主原料以外にも亜鉛などのその他原料や資材品の価格、また労務費も上昇していると思います。このようなコストアップに見合った値上げができないと、来期の収益は覚束ないと思いますが、この点も含めてお客様と交渉している理解で良いでしょうか。

ＪＦＥ：具体的な内容はお答えできませんが、主原料以外の分も含めて価格に反映させていくことが必要と考えて交渉を進めています。

質問者：モノパイルに関して、収益貢献時期・規模感について教えてください。また、エンジニアリング事業の来年度の収益見通しについても教えてください。

ＪＦＥ：モノパイルは工事進行基準で利益を計上するため、製造開始後は今期から段階的に利益に寄与することになります。エンジニアリング事業は受注額が 7,500 億円（過去最高であった前年度比＋1,700 億円）と増加しており、また、モノパイルの製造も本格化していくことから、来年度は増益を期待しています。

質問者：紐付きの原料分は価格転嫁できると思いますが、輸出の交渉分野の値上げは足元の厳しい環境でも可能と考えているのかについて教えてください。

ＪＦＥ：輸出は基本的に個別交渉がベースとなり厳しい面もありますが、オーストラリアのサイクロン影響による原料炭価格の上昇はマーケット全体で共通の環境であることから、一定程度の価格反映は可能と考えています。

質問者：中計達成に向けた鉄鋼事業の経営課題についてどのように認識しているのか確認させてください。

ＪＦＥ：鉄鋼事業では「量から質への転換」を進める方針であり、高付加価値品の比率向上が課題です。26 年には倉敷第 2 期の電磁鋼板設備増強が立ち上がること、洋上風力向け（大単重厚板）についても、国内案件の受注が決まったことに加え、輸出向けも商談が成立してきています。加えて、GX スチールの拡販や、継続的なコストダウンの取り組みも必要と考えています。

質問者：インド（BPSL）には段階的に出資すると思いますが、収益および財務的なインパクトについて確認させてください。

ＪＦＥ：インド事業への出資は段階的に実施しており、26 年 3 月末時点で 25%、26 年 6 月末時点で 50%の出資比率となる予定です。利益の取り込みは、出資段階の比率に応じて、持分法として取り込む方向で検討しています。

質問者：JSW およびインド市場の収益貢献見通しについて、確認させてください。

ＪＦＥ：インドは経済成長率も高く鋼材消費も伸びており、今年度は JSW も前年比で大幅な改善を示しています。来期以降も BPSL の成長と、JSW のオーガニック成長を取り込んでいきたいと考えています。

質問者：設備集約について、中期経営計画の中で色々予定されていると思いますが、現在の需要環境を踏まえて、例えば、すでに実施されている（倉敷 3 高炉の）バンキングのような柔軟な対応がありえるのか、話せる範囲でヒントをいただければと思います。

ＪＦＥ：需要に応じて柔軟な対応は可能ではあるものの、現時点では詳細を公表できるような案件はありません。福山や倉敷の生産体制再構築については中期計画で示した内容に沿って進めています。

質問者：対前回公表の、スプレッド悪化（▲250 億）の内訳について、原料炭上昇以外の実質マージン悪化について確認させてください。

ＪＦＥ：スプレッド悪化の主因は原料炭価格の上昇や円安の影響によるものです。来期には主原料連動分として約 100 億円が改善できる見込みですが、それ以外の部分については、個別価格交渉となり、既に交渉を開始しています。

質問者：国内高炉・電炉、輸入材との競合もあると思いますが、国内市況分野での競争環境に変化はあるのでしょうか。

ＪＦＥ：具体的には申し上げられませんが、当社としては、特に紐付き分野ではシェアの維持・確保を重視しています。量から質への転換を推進しつつも、数量の確保についても稼働率等も踏まえて引き続き意識して営業活動に取り組んでいます。

質問者：輸出採算が悪化していると認識していますが、3Q の輸出環境で採算はとれているのでしょうか。設備集約等の更なるテコ入れの必要性はどう考えているのでしょうか。

ＪＦＥ：アジアの鋼材スポット市況が上がらない中、足元は、原料炭高騰でスプレッドが 100 ドル未満になるケースもあり厳しい状況ですが、収益に貢献できるものを選んで受注しています。来期以降も市況に影響される部分もありますが、最適なプロミックスで生産・販売していきます。

質問者：説明会資料（P22）のその他の部分の来期の方向性について確認させてください。

ＪＦＥ：来期に関して今後詳細な検討を進めていきますが、今の段階で大きな変化は想定していません。

質問者：インド BPSL 事業の来期の利益貢献について、今後、投資が重なり、インドの金利も高いことから、大きな利益貢献は期待できないのではないかと思いますが、来期の利益貢献の見方を教えてください。

ＪＦＥ：来期の見通しについては、現段階でお伝えすることはできませんが、2025 年度上期（4～9 月）における実績を年率換算すると、（年間ベースで）粗鋼生産量 350 万ｔ、税後利益は 170 億円となっています。また、これまで JSW が行ってきた生産能力の改善（粗鋼生産能力 275 万 t→450 万ｔ）や設備投資の効果が、今後さらに発現すると見込んでおります。金利負担を考慮しても、来期の利益貢献は期待できると考えています。

質問者：日鉄エンジニアリングとカナデビアの統合について、どういった分野で競合するのか、業界再編で競合環境がどのように変化していくのかについて教えてください。

ＪＦＥ：JFE エンジニアリングの主力事業分野であるごみ処理焼却炉の市場は、カナデビアとの 2 強構造にあります。日鉄エンジニアリングとカナデビアの統合により再編されることは当

社にとって脅威もありますが、足元 JFE エンジニアリングの受注は好調に伸ばしてきており、引き続き事業を成長させるべく取り組んでいきます。

質問者：説明会資料（P20）を見ると、足元の鋼材輸出比率は、40%程度で安定的に推移していると理解していますが、来期以降の予想にあたって、どのように見ればよいでしょうか。

ＪＦＥ：これまで、量から質への転換の中で、汎用品を減らし高付加価値品に転換してきた結果、輸出比率は 40%程度まで低下してきました。ただし、電磁鋼板等の高級品でも輸出向けの需要が強いものもありますし、汎用品に関してもマーケット動向や設備の稼働率等を踏まえて一定量の輸出も考えていますので、短期間では大きく変動しないと考えています。

質問者：説明会資料（P21）その他＋50 億円のうち、グループ会社+20 億とありますが、インドやアメリカでなにか動きがあったのでしょうか。内容を確認させてください。

ＪＦＥ：前回公表計画より、JSW の 10 月-12 月の損益が確定し、一過性要因も含めて利益が上振れしたことが背景となっています。

［了］

本資料は当社の業績の状況について一般に公表するために作成された資料であり、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券への投資に関する勧誘を構成するものではありません。提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。